



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



今年2022年の“中秋の名月”は、9月10日でした。

満月の日はエネルギーが最大限に強まる日とされ、また満月には強い浄化作用があると言われています。そして満月の日は願い事をするよりも、今まで起きた出来事や自分の行いを振り返る日でもあるそうです。

今年も早や4分の3を過ぎようとしていますが、これまでを振り返ると歴史に刻まれる大きな出来事が多くあったような気がします。世界では、未だ収まらぬ紛争、自然災害の多発、各国のパワーバランスの変化など、わたしたちの理解の許容を超えそうです。個人の力だけでは及ばない事が多いですが、私たちの暮らしを考えた時、地道な活動が必ず未来の笑顔につながると信じています。

+++++

さて今回は、生活に直結する経済を支える事業を展開している**商工会**のご紹介と基礎自治体として元気に暮らせるまちをコンセプトとして取り組みを行っている**玉城町役場**の活動をご紹介します。

三重県商工会連合会と県内 23 商工会の紹介

寄稿者：三重県商工会連合会事務局長 鎌田文雄 様

【商工会とは】

商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となって、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。また、国や都道府県の小規模企業施策(経営改善普及事業)の実施機関でもあり、小規模事業者 のみなさまを支援するために様々な事業を実施しています。もちろん小規模企業施策だけでなく、様々な中小企業施策も実施しています。商工会は、法律(商工会法)に基づいて、主に町村部に設立された公的団体で、全国に1,649の商工会があります。また、各都道府県には商工会連合会があり、広域的なテーマや専門的なテーマについて、みなさんを支援いたします。

【商工会と商工会議所の比較】

区分	商工会	商工会議所
根拠法	商工会法	商工会議所法
管轄官庁	経済産業省 中小企業庁	経済産業省 経済産業政策局
地区	主として町村の区域	原則として市の区域
事業	中小企業施策、特に小規模事業施策に重点を置いており、事業の中心は経営改善普及事業と地域総合振興事業。	地域の総合経済団体として、中小企業支援のみならず、国際的な活動を含めた幅広い事業を実施。

【事業紹介】

- ◎経営一般相談事業
経営全般の課題について相談可能です。創業、税務、法律、経理、金融、労務、IT等の課題に対して様々なツールを使って解決する支援を実施します。専門的な相談も無料で専門家に相談できる事業もあります。
- ◎事業計画策定支援
事業計画書を策定する事で目標ややりたい事を具現化し、計画を実現するため国・県等の施策を活用しながら伴走支援いたします。
- ◎販路開拓支援事業
商談会や販売会の機会創出から出展支援、販促物の作成から商品やパッケージのブラッシュアップ等をトータルで支援いたします。
- ◎事業承継支援事業
事業承継を場合によっては専門家等を含めて支援いたします。また、承継者不在の場合は、事業承継マッチング支援も行えます。
- ◎地域振興事業
地域活性化イベント、地域振興商品券やポイントカード、お役立ち広告の発行等、様々な方法で地域活性化を行っています。
- ◎部会活動
商工会青年部・女性部、商業部会、工業部会、建設業部会、サービス業部会等、各業種に応じた会員事業者が部会に所属して、地域商工業の発展と地域活性化のための活動を行っています。



日時 令和4年11月24日(木) 10:00~16:00
会場 三重県総合文化センター 文化会館2階(第1、第2ギャラリー)
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234
ホームページから詳細情報や参加申込みなどをご覧ください。▶ <https://www.mie-marumie.net>



みえのまるみえ大商談会



イオン明和店 三重フェア

商工会の地区は主として町村区域ということですが、三重県では行政合併の経緯もあり、市の中で商工会議所とともに商工会として活動されているところもあるそうです。県内23商工会は地域密着で Face to Face の支援をされています。



県内商工会アソシア「マルシェグランマ」



辻村修一町長

○ 若者の元気、いただきました！

8月9日から19日にかけて、東京大学と皇学館大学の学生さん計7人がインターンシップとして来てくれました。次代を担う若者にまちづくりの楽しさや厳しさに触れてもらえたらと数年前から取り組んでいます。東京大学は泊まり込みで10日間の合宿生活となり、コロナ×猛暑の中、学生たちの真剣な眼差しは大人たちに元気を与え、未来への希望さえ感じました。最終日には成果報告会を開催し、それぞれがまちの課題を設定し、解決に向けた方策を提案してくれました。

テーマ：『「自治会」「地域通貨」を両輪とした共同体作り』
『子どもとつなぐ まちづくり』
『地域コミュニティ活性化×子どもの町づくり』

○ 地域のつながりを取り戻せ！

玉城町では令和2年の国調で初めて人口減少を記録する一方で、新興住宅地の開発など一部地域では人口流入がみられます。

昭和の合併で1町3村が合併し現在の姿になりましたが、地域ごとに課題は様々で、旧来型自治会の少子高齢化や自治会未加入世帯の増加、更にはコロナ禍による地域活動の低迷など、地域のつながりの希薄化が加速しています。

そこで今年度をコミュニティ再生元年と位置付け、これまで小学校区(旧村)単位でつながりのある土地柄を活かし、平成20年から推進してきた全職員で実施する地域担当制を強化し、小学校区ごとに「地域つながり特命係」を設置しました。

任命した若手職員たちには、地域に飛び出し“行動すること”にこだわって、思う存分チャレンジして欲しいと願っています。



インターンシップ学生のみなさんと



「地域つながり特命係」の職員のみなさんと

【今、『“新”田丸駅』に向け検討を進めています！】

JR田丸駅の駅舎は大正時代の建物で、110 余年にわたりわが町の暮らしを支えて来てくれました。

現在は一日約550人の乗車があり、今なお通勤通学の大きな支えとなっています。

最近では、玉城町のシンボル「田丸城址」や「御城印」をはじめ、170 年前から蘇った金森家茶室「玄甲舎」、熊野古道や伊勢街道が折り合う歴史街道、伊勢神宮摂社末社など多彩な歴史文化を楽しむ観光客の姿も多く見受けられるようになりました。

9月10日に開催されたJRさわやかウォーキングでは県内外から600人を超える観光客の方々にお越しいただきました。

しかしながら、老朽化の流れに逆らうことはできず、駅舎取り壊しの話が浮上してきました。最終的に町として新たな駅舎として生まれ変わることを決定し、JR東海様のご理解、ご協力のもと、現在設計作業を進めています。

建て替えにあたっては「意匠を引き継ぐ」「有人化を目指す」「地域交流の場としての活用を模索する」の3つを基本に検討を進めています。

また、住民主導で「田丸駅でつながるまちづくり協議会」が設立され、駅を中心とした活性化の検討や取り組みが進められており、大変ありがたく感じています。

いにしへに想いを馳せつつ、みなさんに親しまれ、新しい時代に合った“まちなか”活性の拠点となるよう、今後は、利用者アンケートや住民の皆さまとのワークショップも開催しながら、よりよい施設づくりを目指してまいります。



JR田丸駅



田丸駅看板



ウォーキングの賑わい



紀州街道への道標



辻村修一